

ねるゾダンガの民、さらに 宇宙で最も進化した存在で、バレスームの宗教では女神イサスの使徒とされるサーン族がいるらしいが、とにかく、ややこしい。さらに赤色人はともかく、緑色人の姿形をはじめ、登場してくるいくつかのクリーチャーには違和感がいっぱい。『スター・ウォーズ』が40年間にわたって大ヒットし、ジェームズ・キャメロン監督の『アバター』(09年)、『シネマルーム24』10頁参照)が3D作品として大成功したことを受けて、ディズニーはこのテーマを選んだのだろうか、さてその成否は？

火星上ではなぜ抗争を？その黒幕は？この恋は？

2012年3月現在最大の国際問題はイランの動静で、ホルムズ海峡封鎖の噂からガソリン価格がじわじわと上昇中。もし、イスラエルとイランとの間で戦争が起きると・・・？2010年にチュニジアに起きたジャスミン革命や2011年のエジプト革命は一応終結を迎えたが、アフリカや中東方面における国や民族間の争いは島国ニッポン人にはわかりにくい。それでも日々勉強すれば少しはそのポイントを掴むことができるが、惑星バレスーム上ではなぜヘリウム王国とゾダンガ王国が対立し戦争しているの？また、同じ惑星上でなぜサーク族のようなケツタイな姿でありながら人間と同等の知能を持った生命体がいるの？さらに、本作全般を通してキーマンとなるサーン族の教皇マタイ・シャン(マーク・ストロング)はなぜ一人だけ特殊な能力を持っているの？そこらあたりがサツパリわからないから、スクリーン上で次々と展開される一大スペクタクルも少し白け気味？

本作の紅一点はヘリウム王国の美しい王女デジャー・ソリス(リン・コリンズ)。スタイル抜群の彼女は科学者としてもすごい能力を持っているようだから、エジプトのクレオパトラを見習って、ゾダンガ王国の王子サブ・サン(ドミニク・ウェスト)と結婚すれば、たとえそれが政略結婚だとしても両国の友好関係が築けるのでは？そして、いくらカーターに命を救ってもらったからといって、異なる星を超えてあたかもクレオパトラとアントニウスのようにこの2人が恋に落ちるといったストーリーは、少しムリ筋では・・・。

大コケの心配が・・・

長く続いているハリウッドの超大作路線にも近時少し翳りが見えてきている。第84回アカデミー賞作品賞にノミネートされた作品は例年以上に見どころいっぱいだったが、その中で『アーティスト』(11年)が作品賞、監督賞など主要5部門を受賞したのも、ハリウッド映画が1つの転機を迎えていることの表れかも・・・。

本作の制作費がいくらなのかは知らないが、ディズニーの110周年記念作品として製作された以上、かなりの金額をかけていることはまちがいなし。ところが、その本作がアメリカではどうも大コケらしい。しかして、本作の試写を観たその日に某テレビ局から私の事務所に電話があり、「大作がコケる場合の共通点は何か？」という質問が出た。その取材の背景には本作のアメリカでの大コケがあることは明らかだが、マスコミからそんな取材対象になるということは、本作は日本でも大コケ・・・？そうなるかどうかの1つの試金石は、現在上映中の『STAR WARS エピソード1/ファントム・メナス 3D』(12年)がヒットするかどうかだと考えているが、私の予想では本作は日本でも大コ

ケ・・・？そんな悪い予感があたらなければいいのだが・・・。

2012(平成24)年3月26日記